

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 熊本大学 法学部 法学科

一期生:文理科(末吉中出身)

大学受験という長い戦いを終えた今、喜びでいっぱいです。1月の大学入試センター試験で獲得した得点に加え、自分自身の2次力(筆記試験による学力)や地理的なことを考えた結果、最終的に熊大にチャレンジしました。センター試験の得点による合格可能性を示す判定はDで、決して余裕があるわけではありませんでした。先生方や両親、切磋琢磨してきたクラスメートのおかげで合格することができました。

合格できた今、センター試験後から2次試験までの約40日を振り返る時、D判定だからこそ全力を出し切り、合格を勝ち取ることができたのではないかと考えます。確かに、最終的に合格を果たすことができましたが、3年間を通して、きついことや苦しいことは数え切れないほどありました。正直なところ、中学校時代にあまり熱心に勉強をしていませんでした。換言すれば、自宅あまり学習をしない悪習慣を身につけたまま高校へ入学してしまったのです。もちろん、鹿児島県内、九州内、または全国のライバルと競い合っていくために、高校ではそのような学習習慣や考え方では通用するはずがなく、得意だった数学は不振を極め、結局その代償は大学入試本番まで大きく響きました。

1, 2年次は、学校から出される課題をおろそかにすることも度々あり、何度も何度も教科担任の先生方に叱られました。しかし、今、強く思うことは、それがなければ自分自身の成長はなかったということです。15人しか仲間のいない文理科でしたが、生徒一人ひとりに先生方の目が届きやすい環境にある文理科だったからこそ、より深く個別に対応してもらったと思います。

合格を知った時は、言葉では表現できないほどの喜びで思わず絶叫している自分がいました。もちろん、志望校の合格自体がうれしかったのですが、それ以上に、僕を支えてくれた周りの多くの人たちが一緒になって喜んでくれたことが本当にうれしかったです。泣いて喜び、興奮したまま親戚などに電話で報告してくれた母、最後の2次指導まで励まし続けてくださった学級担任



の先生や教科担任の先生方など、改めて応援してくれた方々の思いを知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そんな私の「母校」である曾於高校のために、これから自分にできることがあれば全力で貢献したいと強く思います。めんどくさがるの私が合格できる程の学力をつけることができたばかりではなく、こんな気持ちを持てる人間に成長できるほど、曾於高校での1日1日の日々はかけがえのないものでした。

後輩の皆さん、皆さんの行く手には多くの困難が待ち構えています。私がそうであったように、逃げたくなったり、くじけそうになったりすることがたくさんあると思います。ですが、そのような試練を乗り越え、入試を終えた時、そのことは忘れられない人生の貴重な思い出に変わります。皆さんの周りには、支えてくれる、応援してくれている人がたくさんいます。曾於高校の恵まれた環境の中で学習できることを忘れず、ともに学ぶ仲間と互いを高め合うことができれば、曾於高校が笑顔輝き夢かなう学校であると実感できる日が必ず訪れます。自分の夢実現のために全力で頑張ってください。

◇ 株式会社フジ技研カゴシマ

一期生:機械電子科(末吉中出身)

私は進路について真剣に考え始めた頃に、地元で工業系の職に就きたいと思うようになりました。三者面談のとき、クラス担任の先生に貴社を紹介して頂き、興味をもつようになりました。会社見学に行った際には、技術力の高さや職場の方の仕事に向き合う姿勢を拝見し、受験しようと思いました。私は選考試験に向けて、学力にあまり自信がなかったので特に面接に力を入れました。かなり大変でしたが、大変なのは皆同じだし、自分の将来のことだと思って頑張りました。

これから自分の進路に向き合っていくみなさん、ぜひ勉強を継続的に行ってください。早い段階から勉強をやっておけば、試験前に苦労しないと思います。そして会社見学にも必ず行ってください。自分の目で見ること、その会社の魅力やよさを見つけることができます。そして、3年生の大事な時期を乗り切ることによって、この先何十年もある自分の人生が決定していきます。頑張ってください。

